

第3回Zoom子どもの学びを創る会

2020.8.29

withコロナの中での教育課程

～育成を目指す資質・能力を考える～



長門市立油谷小学校
講師 芝田 秀樹

(子どもの学びを創る会/日本授業UD学会中国支部代表)



新学習指導要領の完全実施キーワード



- 資質・能力の育成
- 教科等横断的な視点からの教育課程の編成
- カリキュラム・マネジメント
- 主体的・対話的で深い学び

どんな社会の変化にも対応できる子どもの育成

- ・予測困難な時代に変化を前向きに受け止める。
- ・自らの人生を切り拓く力の育成

Withコロナ・Postコロナであっても
積極的に実践し、成果と課題を共有したい。

今年度（2020年度）から始まった転換

受験学力，表層的な知識の暗記

知識・内容（Contents）ベースから，
何を教えるか

社会に出ても，役に立つ力

資質・能力（Competency）ベースへ
何ができるようになるか

- [] の基本的な考え方の転換
- [] の主語の転換

□ 世界に通用し，世界で活躍できる人材を育てる。

□ [] 強みをもち，自らの力で立ち上げていく資質・能力が必要である。（2020赤坂）

育成すべき資質・能力とは何か

- ・ 国内外の多様な考え方と資質・能力の分析から
- ・ 「生きる力」や教科等の学習を通して育まれる資質・能力
- ・ 学習の基盤となる資質・能力
- ・ 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

からの共通する3要素。

- ・ 知識に関するもの
- ・ 思考や判断, 表現等に関する力に関するもの
- ・ 情意や態度に関するもの

育成すべき資質・能力の三つの柱

感性・思いやりなど
(個人内評価)
(児童生徒の学習評価の在り方について平成31年1月21日)

主体性・多様性・協働性
学びに向かう力, 人間性 など

主体的に学習に取り組む
態度 (評定)
(児童生徒の学習評価の在り方について平成31年1月21日)

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニングの視点からの
不断の授業改善)

学習評価の充実
カリキュラム・マネジメントの充実

何を知っているか
何ができるか

個別の知識・技能

知っていること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

各教科の目標と資質・能力の構造

小学校

中学校

高校

柱書 (教科の特質に応じた) 見方・考え方を働かせ, ~通して, ~資質・能力次のとおり育成することを目指す。

~理解し, 適切に使うことができるようにする。
~理解するとともに, ~技能を身に付けるようにする。

~伝え合う力を高め, 思考力や想像力を養う。

~考察する力, ~簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

~問いを見出し, ~整理・分析して, まとめ・表現することができるようにする。

~能力の向上を図る態度を養う。

~生活や学習に活用しようとする態度を養う。

~積極的に社会に参加しようとする態度を養う。

知識及び
技能

思考力・判断
力・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

各教科等の目指す資質・能力の三つの柱

小学校社会科において育成を目指す資質・能力

小学校社会科の目標

第3学年

第4学年

第5学年

第6学年

社会科の特質を表しており、小中学校で同じ表現
社会的な見方・考え方を働かせ、問題解決の活動を通して、公民としての資質・能力の基礎を育成

基礎的・発展的・応用的な学習の目標

各学習対象について、人々の生活との関連を踏まえて理解する

我が国の役割について理解する

4年間で身に付けさせたい
知識及び技能

知識と技能に分かれた表現

3～5年は、人々の生活との関連で理解し、5・6年では、わが国という視点から理解する。

学習対象に対して調査活動や各種の具体的資料、基礎的資料を通して情報を調べ、まとめる技能を身に付けさせる。

調査活動、地図帳や各種の具体的資料、必要な情報を調べまとめる技能

地図帳や地球儀、統計や年表各種の基礎的資料、情報を適切に調べまとめる技能

4年間で身に付けさせたい
思考力・判断力・表現力等

3・年生では、思考は特色・相互関連・意味、判断は課題把握と解決に向けた関わり方を重視し、思考・選択判断したことを表現。

5・6年では、中学年に多角的な思考を加え、説明・議論を重視。

思考は特色・相互関連・意味、判断は課題把握と解決に向けた関わり方
表現は、思考・選択判断したことを表現

中学年に多角的な思考に加え、説明したり議論したりする力を求める。

4年間で身に付けさせたい
主体的に学習に取り組む態度

主体的に問題解決しようとする態度や学習したことを社会生活に生かそうとする態度の育成(4年間同じ)

態度と自覚を養う。

主体的な問題解決の態度や社会生活に生かそうとする態度（4年間）

中学年では、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を重視。高学年は、多角的な思考や理解を通して、国土と歴史への愛情、我が国の将来を担う国民として自覚、世界の国々の人々と共生の大切さへの自覚を養う。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学習に向かう力、人間性等

新型コロナウイルスの2波・3波に備えて

○限られている授業時数の中で、学習活動や学習内容を重点化した問題解決型の授業づくり。（実験・観察，対話・説明，実験器具の扱い方）

4年「季節と生物」 → 6年理科「生き物のくらしと環境」(6) → 中学校「生物と環境」

知・技

生物と環境との関わりを理解する。
観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

思・判・表

生物と環境との関わりを追究する中で，それらの働きや関係について，より妥当な考えをつくりだす力を養う。

態度

生物と環境との関わりを互いに話し合ったりしながら，主体的に追究する態度を養う。

生命領域の見方
主として，
共通性・多
様性

1 食べ物を通した生き物のかかわり

写真を見て食物連鎖を話し合う。
ダンゴ虫の葉の食べ方観察

2 生き物と空気のかかわり

植物と動物の空気と水のかかわりを話し合う
気体検知管の使い方

3 生き物と水のかかわり

P83の図をキーワードを使って説明(宿題)

※様々な生き物の生態など，デジタル資料で補完する。（4時間でしたい）

複雑で予測不可能な状況VUCAの到来

Volatility（変動性）

変化の質や量が予測不可能，平時・安定時とは違う視点や行動が求められる。

Uncertainty（不確実性）

突然の過激な変化，確実とされてきたことも基盤が揺らいでいく。

Complexity（複雑性）

「GAFA」を代表とする国や業界を越境するIT企業の出現，SNSなどにより個人が様々なコミュニティと接点をもち社会はより複雑性を持つ。

Ambiguity（曖昧性）

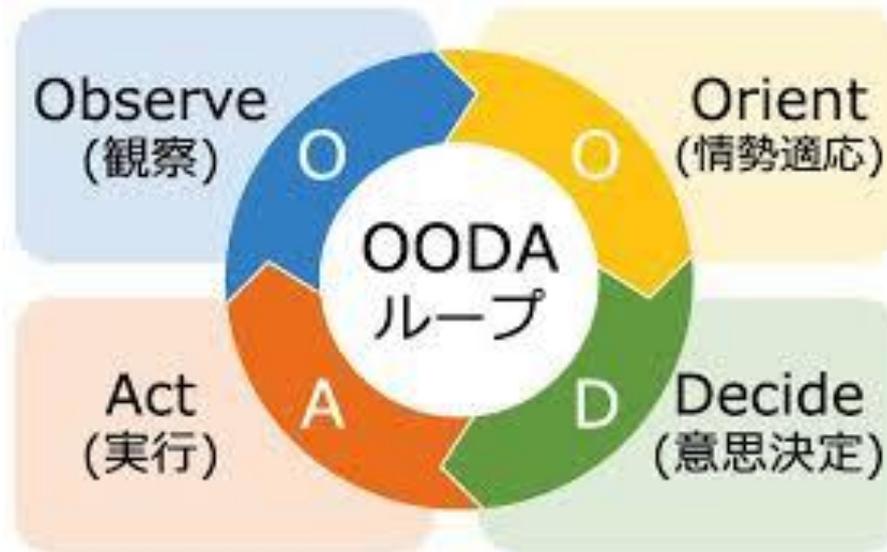
因果関係が不明，かつ前例のない出来事が増え，過去の実績や成功例に基づいた方法が通用しない曖昧性が高い社会に突入する。



「VUCAワールド」2016年世界経済フォーラムダボス会議にて

P D C Aから, O O D Aへ

※ P D C Aの代わる「みる・わかる・きめる・うごく」メソッド



P D C Aのマネジメントの気になるところ

- ・計画段階の根拠が曖昧となれば、実践・評価の信頼性に不安が残る。
- ・元々、商品管理のマネジメント。計画にそぐわない事態は不測の事態であり、計画通りに動かない子どもは、不良品と考えられる。(2020赤坂)
- ・P D C A教室は、制度側からは、評価され喜ばれるが、学級崩壊しているとき、こちらの計画は、ほぼ拒絶される。 O O D A型の教室は、ラブルがちょいちょい起こり、一見、落ち着きがないように見える。しかし、子どもや保護者、そして、一部の同僚から圧倒的に支持される。(2020赤坂)

次代を切り拓く

子どもたちに求められる資質・能力

誰一人取り残すことのない「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

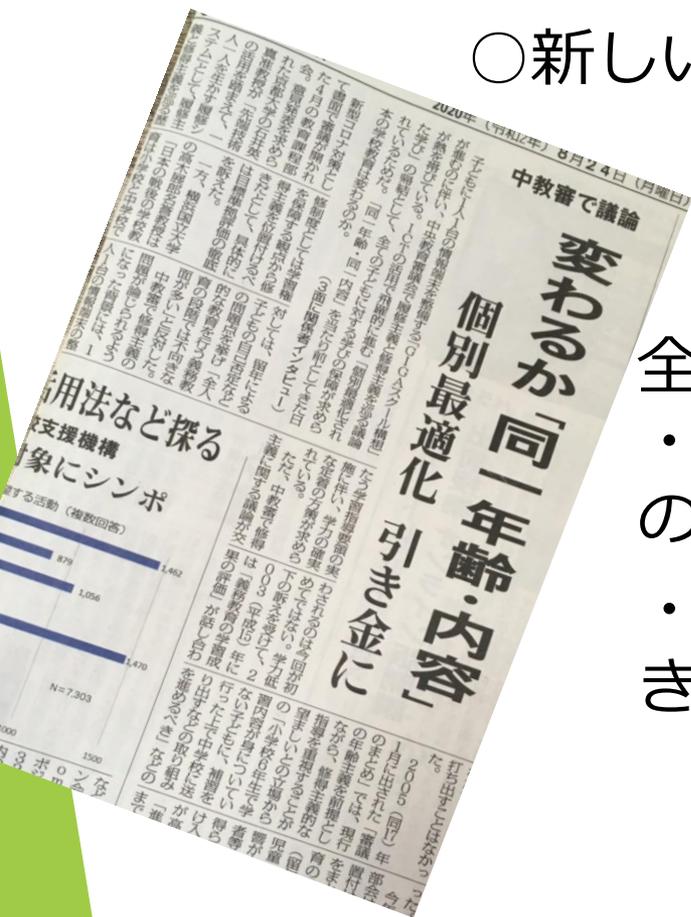
- 文書の意味を正確に理解する読解力
- 自分の頭で考えて表現する力
- 新しい解や納得解を生み出す力

中教審特別部会（2020.8.20）

全ての子どもに対する学びの保障

・ G I G A スクール構想の進展や I C T の飛躍的な活用

・ 同一年齢・同一内容を当たり前にしてきた日本教育と個別最適化された学び



学校組織の改善循環モデル (ダニエル・キム 組織の成功循環モデル)

関係の質をあげるには結果の質をあげる。



関係の質

お互いを尊重, 一緒に考える

思考の質をあげるには関係の質をあげる。



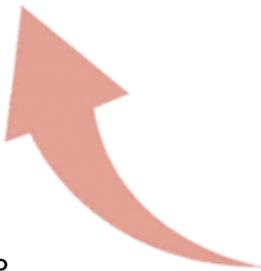
思考の質

気づき, 当事者意識, 楽しむ

結果の質

成果が得られる・実感する

結果を出す組織は行動の質が高い。



行動の質

自発的に行動, チャレンジ

行動の質をあげるには思考の質をあげる。



質の高い行動の背景には, 思考(戦略)がある。

組織の成功循環モデル (ダニエル・キム)